

まに来るので「アタマキリン」と愛称されていたが今ではそんなことはなく、なかなかの飲み心地である。

生鮮食品にも、タケノコ、ハクサイ、ハウレンソウ、いか、マグロ……と日本料理の材料には事欠かない。早朝マーケットに行くと、八百屋さんは半分近く、魚屋さんも四店に一店ぐらいは日系の人である。他の食品、雑貨などにも必ず何軒かは日系の人の店があり日本語で買いものができる。

魚屋さんで「今日はサシミはどれがいいかな? そのイカは天ぷら? それともサシミ?」などと言って買いものをし、八百屋さんでキウリ、大根、ナスなどを買って帰り、研究所の連中を所長のお宅(滞在中はそこで御厄介になっていた)に集めて得意の腕をふるい、——もちろん、若くてきれいな所長夫人がつきっきりでアシスタントしてくれた——大いに日本料理を楽しんでもらった。

たべもの話ばかりでは恐縮なので天文台の話しよう。天文台はサンパウロから60キロほど内陸に入ったアチバイアという町の近くにある。コーヒー栽培の盛んな地方で日本の移民のうんと多いところである。天文台

の技官のような人が4人いるが、そのうち二人は日系である。(サンパウロの研究所の方では秘書嬢が一人日系、所員のうち二人は日系の人と結婚している)。二世、三世なのでもう殆んど日本語をしゃべるチャンスはないのだがそれでもコンニチワ、オハヨウ、あつい、さむい、うまく行った……などの会話は不自由ない。

実はこの人たちは英語がほとんどダメなのである。私と一緒に仕事するときには

「セグンデのカナイスのアンプリフィカードのエントラダがどれかわかるか(第二チャンネルの増幅器の入力端子はどれですか?)」「アウトテンションのそばだからさわるなよ、オジサン」(高圧の近くだから接触しないようにして下さい、セニョール)

テナ具合でいとも珍妙なるポルポニーズのやりとりになる。文章のうしろにはたいてい、ドクトールかまたはオジサンがつく。オジサンというのはポルトガル語のセニョールの意味らしい。

とにかく楽しい一ヶ月であった。

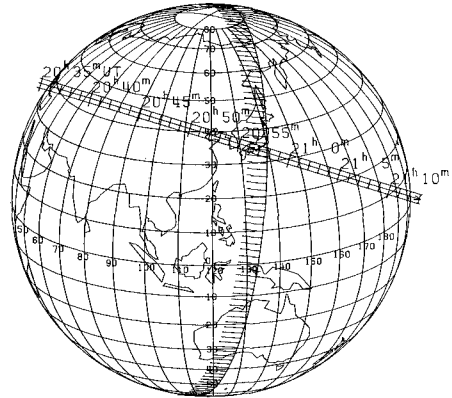
雑報 II

小惑星の衛星

小惑星による恒星の掩蔽は毎年英編暦局の G. E. テイラーによって予報されている。昨年予報されていた40個程の掩蔽のうち2個はアメリカで観測され、同時に、双方とも、小惑星の衛星によるものと思われる掩蔽が観測された。

昨年6月7日に起こった(532) Herculina (9.3等)による SAO 120774 (6.2等)の掩蔽は、カリフォルニア州ロサモンドとボロン、それにアリゾナ州のローエル天文台でそれぞれ 17^h3, 23^m5 の掩蔽が観測され、Herculina の形を球形と仮定して、その直径が 243±1.4 Km と求められた。しかし、カリフォルニア州フレズノでは掩蔽の起こらなかったことが3人の観測者により確認されており、上の結果と一致しない。それで、Herculina の形は楕円体であろうと考えられている。この掩蔽に先だつこと約2分、ボロンとローエル天文台でそれぞれ 4^h0, 5^m3 の掩蔽が観測された。これは Herculina の衛星によるものと考えられ、その直径は 45.6±3.6 Km、視線方向に垂直な面に投影した Herculina とその衛星との距離は 977±1 Km (角距離 0^o866) と求められた。(THE MINOR PLANET BULLETIN 6, 13, 1978).

昨年12月11日に起こった(18) Melpomene (9.2等)による SAO 114159 (7.7等)の掩蔽は、ワシントン D. C., ボルチモアで 9^h11^m0~11^m5 UT に観測され、その



(65) CYBELE (13.2等)による +19°1399 (9.7等)の掩蔽

直径は暫定的に 135 Km と求められた。さらに、アトラントでは 9^h10^m50^s9 UTC から 5^s77 間の掩蔽が観測され、これは Melpomene の衛星によるものと結論された。その直径の下限値は 37 Km である。また、双方の光電観測記録から、掩蔽された恒星も、位置角 97° 方向の成分の角距離が 0^o011 の二重星であることがわかった (IAU Circular No. 3315).

今年も既に以上の小惑星による掩蔽が予報されている。そのうち、10月17日に起こる掩蔽は下図に予想経路を示したとおり日本でも観測される可能性が大きい。多くの観測が望まれるところである。

(相馬 充)